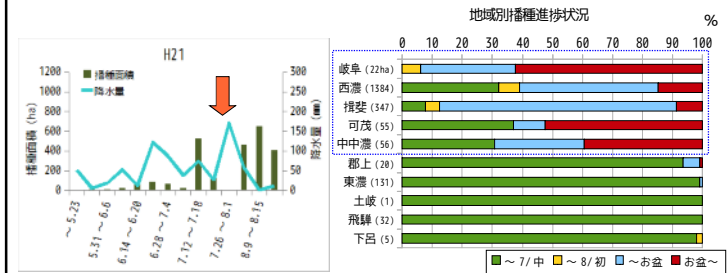


岐阜県の大豆摘心処理について

(フクユタカを生産する)
西濃地域の生産者の取組みについて

岐阜県 農政部

長雨による播種遅れ(H21)



フクユタカ主産地での播種遅れが著しかった。

近年の栽培状況

播種時期の後退 = 6月下旬～7月上旬播種の減少

適期播種は梅雨 : 湿害・雑草多

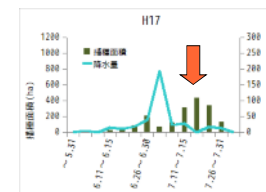
主茎長が長い : 倒伏

7月中旬播種 : 過去に良い結果を経験

しかし、**播種遅れ** や **収穫完了前の降雪** で
良質安定生産に暗雲が...

適期播種による **危険分散** が必要。

収穫完了前の降雪(H17・21)



(H17. 12. 19)

H17年産は、
7月中下旬に播種できたものの、
12月の降雪で根雪化。

(H21. 12. 20)

※ H21年産は、(8月下旬播種による) 収穫期の遅れに加えて、
降雪で収穫進まず。(降雪日: 12/18-19, 31-1/2, 7, 14)

県大豆作の基本的考え方 (フクユタカ)

- 1 適期播種：梅雨時期でも可能なところで播種する
 - 培土栽培が基本：雑草及び倒伏対策
 - 湿害対策が必要：(耕うん同時) 畦立播種
 - 摘心処理を考慮：倒伏等が懸念される場合
 - 追加の雑草対策も考慮：梅雨で除草剤処理層壊れ易い
- 2 晩播：梅雨明け後播種は生育量不足を考慮する
 - 狭畦無中耕無培土栽培による対応を
 - (ただし、主茎長伸び過ぎた場合は 摘心処理を)

摘心処理の必要性

6月下旬播種や晩播密播の場合、
 蔓化・倒伏による減収回避技術 として

「摘心処理」

考え方の図式 (フクユタカ)



西濃地域での取組み①

J Aにしみの試作機 (I社へ依頼)



(サンフレッシュ海津で実施)



西濃地域での取組み②



福江宮農の試作機（独自開発）



(H21の) 取り組み結果



	播種日	摘心日 (対開花日)	主茎長 (無処理区)	1株着実数比率 (対無処理区)	倒伏程度 (無処理区)
サンフレッシュ 海津	6/25	8/6 (-10)	54cm (71cm)	112%	中 (多)
福江宮農	7/15	8/22 (-5)	49cm (59cm)	118%	少 (中)
クリーンファーム 日吉	7/16	8/28 (+0~)	33cm (46cm)	60%	少 (少)

西濃地域での取組み③



クリーンファーム日吉の試作機（K○社へ依頼）
(生産性限界打破事業による導入)



摘心処理の課題



- 1) 摘心処理可否の判断基準の早期確立
=>いつ、どんな生育状況で、行うべきか否か？
- 2) 中耕培土の作業時期が重複
=>中耕培土と同時作業が可能か？
- 3) 成熟期の適正化
=>生育量が過剰な個体の成熟期を制御する。
播種順通りに収穫が可能となるか？

「摘心処理」は、今後も
大豆の安定生産を
拡大する技術として。